カトリック
広島教区報
No. 129
カトリック
広島司教区
発行責任者
広報担当
服部大介神父
「点訳版・CD版」あります。
お問い合わせください。
広島市中区幟町4-42
広島司教館内
TEL（082）221-6017

恵みの風を受けて感謝のうちに
「教区創立百周年」へ

広島教区　アレキシオ　白浜　満　司教

はじめに

広島教区においては、第三回目の教区代表者会議（教区シノドス）が、初めてオンラインの形式で、二会期（二〇二一年十一月二十三日と二〇二二年二月二十三日）に分けて行われ、教区民の皆さんとともに、教区創立百周年後の宣教司牧の目標や優先的な取り組みを識別する大きな恵みを、神様から与えていただきました。この恵みの風を受けて、わたしたちは「教区創立百周年」という、歴史的な節目の時に向かって行くことになります。

倉吉教会（鳥取県）白浜司教公式訪問（6月19日）

広義での「教区創立百周年」

大阪教区に属していた中国五県（岡山、鳥取、広島、島根、山口）の宣教司牧がドイツのイエズス会に委託されて、一九二三年の五月四日に、広島使徒座代理区が設立されました。「使徒座代理区」とは、正式に「教区」が設立される前の段階の名称です。教会法典によれば、「特別な事情により、いまだ教区として設立されるには至っていないため、その司牧を使徒

じゃけえのう

関東だと「だからさぁ」、現在広島市内在住中学生は「じゃけさぁ」、私の生まれ育った山陰（出雲弁）では「だけんのう」、の「じゃけえのう」はじまりまーす。

このたび、「青少年情報センター」の見直し（司教教書「10のテーマ・30のチャレンジ」の一つ）を含む青年活動の活性化を目指し、五年振りに教区の青年司牧の現場に戻って参りました。そもそものきっかけは司教さまより「青少年情報センター」の見直しを打診され、当時の担当であった三宅神父と職員の楠本さんと改革案を提出させていただいたことによります。

そして、司教顧問会、司祭団、教区宣教司牧評議会、平和の使徒推進本部などで承認をいただき、この六月より「青少年情報センター」は企画、運営、ネットワーク作りに力を入れた「青年活動企画室」（以下、「企画室」）に発展的に移行してスタートしております。

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね！」という意味。

一番大きく変わったところは、活動のサポートをする組織ではなく、これまで以上に活動を企画していく組織になるというところです。小教区や地区の「青年会」や「子ども会」といったサポートを必要とする活動がなくなりつつある、という現状を考慮した時、こちらから出向いて（企画を立ち上げて）いき、呼びかけ、リードしながら共に歩んでいく。というような関わり方が、より必要だと感じたからです。

具体的には、これまで青少年情報センターが担っていた公式の情報発信はもちろんのこと、中国ブロックカトリック高校生大会、大学生大会、青年大会など、これまで以上に教区主体の青年企画を運営しリードしていきます。

また、信者・非信者を問わず、教区の青年活動に有益な情報を見つけ、それらをバックアップし、コラボレーションや協力もさせていただければと思っています。

加えて、青年のネットワーク作りも取り組まなくてはならない大きな課題です。

いずれにしても「企画室」の役割は、企画運営に軸足を置きつつ、その時々でカタチを変えられるよう柔軟にしておくことが必要と考えられます。

また、小学生、中学生カテゴリーは「教区召命学校」、「練成会」といった企画ごとに組織化されており、それらを一まとめにするのは時期尚早との助言をいただいたため、「企画室」の対象年齢は高校生以上の青年となりました。

専従の職員として益田なおさん、担当補佐に三宅仁孝神父、担当に大西神父というメンバーでスタートした「企画室」が司教教書にある「ともに歩むあたたかさのある教会」であることを伝え、一人でも多くの青年に「教会っていいね！」と思ってもらえますように。祈ってございると喜びます（祈ってくださるとありがたいです）。

（大西　勇史　神父）

司教メッセージ・じゃけえのう　一・二面
教区の動き　三・四面
J―CaRM・平和行事案内　五面
地区・海峡からの風　六・七面
青少年・ひと粒　八面

座代理区長に委ねられる。使徒座代理区長が教皇の名によって、これを統治しなければならない」（教会法第三七一条第一項の抜粋）とされています。

イエズス会と淳心会の支援

「使徒座代理区」には、教皇の名によって代理区長が任命され、その代理区を司牧することになります。初代の代理区長はハインリッヒ・デーリング大司教（一九二三年～二八年）が任命され、岡山に代理区長館が置かれていました。その後任のヨハネス・ロス司教（一九二八年～四〇年）時代の一九三九年に、代理区長館が広島に移されました。一九四〇年には、アロイジオ荻原晃師が代理区長（一九四〇年～五九年）に任命されました。三名の代理区長は、いずれもイエズス会員です。荻原代理区長時代の一九五一年に、イエズス会は、中国五県のうち岡山県と鳥取県の宣教司牧を、淳心会に委託しました。その後、一九五九年六月三十日に「広島使徒座代理区」は、正式に「広島教区」に昇格することになりましたので、イエズス会と淳心会が、広島教区を設立する基礎を築いてくださったことになります。会員の中から多くの司祭を派遣し、宣教活動を通して信徒の共同体を育成し、さらには土地を購入して、教会堂、司祭館、信徒会館、カトリックの教育施設などを建てたりして、人的にも、霊的にも、経済的にも、多くの支援をしてくださったイエズス会と淳心会、そして歴代の会員各位に、心より感謝をしたいと思います。

今年、還暦を迎えた白浜司教

広島教区の歩み

「広島使徒座代理区」が正式に「広島教区」に昇格してから、今年の六月三十日で、厳密には（狭義では）広島教区創立六十三年になりました。そして、野口由松初代司教（一九六〇年～一九八五年）、ヨセフ三末篤實第二代司教（一九八五年～二〇一一年）、トマス・アクィナス前田万葉第三代司教（二〇一一年～二〇一四年）、そして、わたしが二〇一六年九月十九日に第四代の司教として叙階され、今日に至っています。この間、淳心会は一九九七年に鳥取県と岡山県の宣教司牧を広島教区に移管し、イエズス会は二〇一三年に山口県と島根県（山口十教区を除く）の宣教司牧を広島教区に移管しました。しかし、広島教区は、イエズス会と淳心会にそれぞれの会員司祭の派遣を依頼し、今日に至るまで、多くの十教区の宣教司牧に従事していただき、多大の協力を継続していただいています。また、その他にも、広島教区は、ミラノ宣教会、フィリピン宣教会から、そして姉妹教区の絆を結んでいる韓国・釜山教区、ベトナム・ソンロック教区からも、司祭を派遣していただいています。現在、広島教区内で働く約五十名近い司祭の中で、教区司祭は二十一名で、全司祭の半数以下の状態です。これまでの間、広島教区で働いてくださった宣教会・修道会・教区のすべての司祭の各位に、心から感謝をしたいと思います。

修道会・在俗会の奉仕

ここにすべての名称を列挙することはできませんが、広島教区には、現在、上述した会の他に一つの修道士会、十四の女子の活動修道会、一つの女子の観想修道会、二つの在俗会が、種々の分野で奉仕してくださり、教区の宣教司牧活動の一端を担ってくださっています。広島教内で働いてくださった歴代の男女の修道者・在俗会員の各位にも、心から感謝したいと思います。

教区と小教区

教会法典（第三六九条・三七五条参照）によれば、教区とは、十二使徒の後継者である司教に委託され、司祭団の協力のもとに司牧する神の民の一部分です。そして教区はさらに小教区に分割されて、司祭にその司牧が委託されることになっています。広島教区には現在、広島県に十二の小教区と二つの巡回教会、山口県に十三の小教区と二つの巡回教会、島根県に五つの小教区、岡山県に八つの小教区と一つの巡回教会、鳥取県に三つの小教区と一つの巡回教会があります。合計すると、広島教区全体では、現在、四十一の小教区と六つの巡回教会があります。これらの小教区と巡回教会は、区分（区域）というより、親密なキリスト者の共同体、霊的な家族です。世界に広がる神の民（カトリック教会）の一つの部分である広島教区の信徒各位にも、心から感謝したいと思います。

「教区創立百周年」をよい機会として

広島教区の兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは、今年の「教区の日」（九月十九日）から来年の「教区の日」（九月十八日）までの

一年間を、「教区創立百周年」として祝い過ごして行きます。開年ミサと閉年ミサを始め、種々の企画や行事などの情報も、徐々に公開されていくことと思います。この一年を通して、教区の百年の歴史を学び、教区を導いてくださった神様に感謝をささげましょう。よき牧者である主イエス・キリストは、聖霊の働きをもって、わたしたちを導き、今もなお、日本とくに中国地方の人々の福音宣教を継続してくださいます。現代社会の様々な困難の中にあって、わたしたちの信仰共同体の小さな船は、逆風に悩まされ、沈みかけているかのような印象を受けることも事実です。しかし「わたしだ。恐れることはない」（ヨハネ6・20）という主イエスのみことばを心に響かせながら、すべてを導かれる神様への感謝と信頼を新たにし、神の家族としての絆を強め、ともに歩んで行きたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇二二年度（第一回）広島司教区宣教司牧評議会開催】

去る六月十一日（土）、二〇二二年度第一回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣司評）が、インターネット回線を利用したリモート会議形式で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の全三十一人が出席した。全国の新型コロナ感染者数が減少傾向にあることから、メイン会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の半数の十五人が集い、その他の評議員はリモート接続して予定通り会議を開始した。

教区宣司評は、「ウクライナの戦争が一日も早く終わるように、祈りのうちに会議を進めていきたいと思います。この一年、平和をテーマに歩んでいきますが、改めて今日の社会情勢の中、平和を願いましょう。」と言う白浜司教の挨拶と祈りで始まり、以下の議題が取り扱われた。

まず「二〇二〇教区代表者会議」の成果をまとめた、司教教書（要約版パンフレット）の四つのポイントについて、白浜司教から説明があった。

①「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」を十年間のメインテーマとし、三年ごとのテーマを設定。

②十年後の二〇三二年度（創立百十周年を迎える前の年）を目処に、第四回目の教区シノドスを開催したい。

③三つの「柱」から五つの「強調点」へ変更し、代表者会議で示された提言から「十のテーマ・三十のチャレンジ」を打ち立て、十年間取り組んでみたい。

④今後の動きを大切にするため、提言を推進するための教区組織「シノドス対応調整チーム」を設置、オンラインを活用した「ネットひろば（但し、分かち合いの手段のひとつ）」の開設、拡大会議としての「教区ひろば」を開催したい。

なお、司教教書の全文は印刷物にする予定がないため、必要に応じて教区ホームページから各自でダウンロードして欲しいとのこと。

続いて「福音ひろば」について担当の大西神父から説明があった。この「福音ひろば」は司教教書の「教区ひろば」「ネットひろば」より前に発案があった企画で、既に試験的にスタートしている。百周年期間の一年間、まずは継続的な実施を目指し毎週木曜日に世代別での開催を予定。詳しくは専用のチラシを参照。

そして、「協働体」区分の一部変更について白浜司教から、二〇一八年からスタートした協働体の区分の一部を現実に即した変更（交通の便、小教区のつながりの強弱、動きやすさなど）を行い、二〇二二年度から再スタートしたことの説明があった。

更に、「教区創立百周年記念行事」について、記念行事実行委員会から全体および九月十九日の開年ミサに関し、決まっている内容についての報告があった。百周年期間中に掲示するポスターを用意されている。

また百周年史編纂委員会から、現時点の進捗状況についての報告へと続いた。

次の議題は、教区テーマ「社会へのチャレンジ」最終年のサブテーマ「平和（隣人との関係）」について、教区全体の取り組みとして、二つのポイントについて平和の使徒推進本部社会司牧担当から説明があった。

①教区内のボランティア活

動団体情報を教区ホームページへ掲載（既に掲載済み）

②社会司牧担当の今後の活動や種々の社会司牧に関連する案内や情報は、広報に注力し教区内に周知していきたい

続く議題は、「青年活動企画室」について、担当の大西神父、教区職員の益田さん（幟町）から説明があった。青少年情報センターを改名し、昨今の青少年活動の実情を踏まえ、企画室が自ら主体となり青年たちをリードしていく機関になることを目的としている。これは司教教書「養成⑧」に関連し、チャレンジの第一号として具現化。既に教区顧問会議で承認を受け五月から始動しているが、本教区宣司評において改めて議決され正式に活動を開始した。

白浜司教は、また、「世界代表司教会議（世界シノドス）に向けての質問に対する教区の回答」について、五月八日に日本司教協議会へ提出済みであることを報告した。提出した回答内容は、教区ホームページにお礼文と共に掲載しているので閲覧頂きたい。

続いて平和の使徒推進本部から、「シノドス対応調整チーム規約」（案）が提示され、説明の後、賛成多数により承認された。これにより同日、規約は施行し、「シノドス対応調整チーム」は正式に活動を開始した。

更に議題は、教区の祈祷書「信徒手帖（仮称）」について典礼委員会の瀧井神父から説明があった。百周年記念行事の一環として、また司教教書「福音宣教①」に関連したチャレンジの具体化として、祈りや信徒の心得などが盛り込まれた冊子になる予定で、百周年期間中に発行予定とのこと。

教区宣司評の後半は、各報告事項を中心に、まず典礼委員会から、今年の待降節からミサ式次第が変更されることについてお知らせがあった。

続いて、平和行事実行委員会から、今年もコロナ禍の影響で昨年同様、教区外への呼び掛けはしないとのこと。

更に、各地区・協働体・修道女連盟からの報告に続き、「新型コロナウイルス感染症の対応について」白浜司教からお知らせがあった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。

なお、次回（第二回）教区宣司評は、十二月十日に開催予定。

【教区創立100周年記念行事のお知らせ】

教区創立100周年　開年ミサ・記念講演会
日時：**9月19日**（月・祝）「教区の日」
場所：**米子教会**
開年ミサ　**11時から**（司式：白浜司教）
講 演 会　Sr.三好 千春（援助修道会）

【カトリック広島司教区ボランティア活動団体情報（二〇二二年六月更新）の公開について】

広島司教区には多くのボランティア活動をしている団体があります。二〇二〇年新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）が蔓延する前、教区目標「社会へのチャレンジ」の一環で、小教区で関わっているボランティア情報を集約しました。ところが、新型コロナが流行し、さまざまな社会活動が制約され、このボランティアリスト（以下ボラリス）の公開も保留となりましたが、この度、ようやくボラリスを公開することが出来ました。

教区の皆様には活動の内容を知っていただき、連携を強めると共に、協働の輪を広げるために利用していただければと思います。なお今回掲載するボランティア団体は、以下の条件を満たす団体に限定しています。

・掲載を希望する団体であること。
・教会内の組織のみならず、教会外の組織に教会メンバーが加わっている団体も含むこと。
・現在活動中の団体であること。

なお、本情報は団体責任者、窓口担当者から寄せられた情報をそのまま掲載しています。広島教区が公認

社会司牧デスク　ホームページ

した団体ということではありません。団体についての質問があれば直接団体にお問合せください。

集約時から時間も経過しており、ウィズコロナ社会の中で、さまざまな新しい活動も始まっていると思われます。特に新型コロナは健康問題をはじめ、多くの貧困問題にも直面していました。まだ、子ども食堂等の登録はありませんので、これを機会に是非登録してください。活動再開のご連絡もお待ちしております。

（トップページの下に登録情報の項目を載せています。）

社会の中で奉仕できる教会（信徒）の姿こそ、福音宣教の第一歩。どうぞ、このボラリスを活用して「社会へのチャレンジ」を！

なお情報の誤り、更新、掲載希望がある場合は、平和の使徒推進本部 社会司牧担当（info@social-desk.net　FAX082-221-6019）まで連絡をお願いします。

ホームページ
ＱＲコード

JｰCaRM広島便り

J-CaRMの役割

山口島根地区J-CaRM　藤本忠文

なんとも待ち遠しかった二〇二一年の降誕祭のミサ　実現しました

サビエル教会でフィリピン人の皆さんのためのミサは、二〇二一年一月以降新型コロナのため中断せざるを得ず、復活祭も被昇天のミサもなく時間は過ぎていきました。

感染した場合責任が取れるわけではありませんが無理な開催は不可能でした。またフィリピン人の人達も非常に敏感に反応していて、ミサへは参加はしたいが今は我慢をして、インターネットでの参加で当座は凌ぐと言う状況でした。パソコンを使ってのミサの場合、こんな状況下でもミサに与る事ができると言う事、日頃は会えない神父様の話が聞けると言う事等で、ミサ後に友達に会うと言う事は出来なくとも得ることはあったようでメールを通して皆さんの声が聴けました。

毎日の新規感染者数には敏感になり、一喜一憂する日が続きました。何としてもクリスマスミサはと言う希望の為か、十一月中旬を過ぎると新規感染者数が減少に転じました。このまま行くのならば、可能性があるのではと思いながらも何故だか口では言い出せませんでした。皆さんに期待させておいて、実現できなかったら悪いと言う気持ちがあったのでしょう。

それでもバート神父様に日程確保、場所の確保、参加予定者への知らせ等が関係者の間で進行していきました。

主に祈りながらも、皆にはコロナ次第よと言いながら準備は進みました。準備に関わった一部のフィリピン人の人達の気持ちには全く迷いがないのを知り、万一の場合どうするのだろうかと心配もしました

十二月十九日の感染者の傾向で心配は消え、打ち合わせに弾みが付きました。サビエル教会のカンガス神父様も参加してくださると言う知らせを聞き、それまでの心配と不安が一気になくなりました。準備を進めていた人たちも口では言いませんでしたが同じ気持ちだったと思います。

十二月二十六日のミサ後のパーティーで数人の世話役にどうだったと尋ねましたが、みんなにっこり笑い嬉しそうな顔をしていました。私も言葉がなく、ただ肩をたたいてうれしさを出すだけでした。

主が彼らの祈りに応えてくださったと感謝しています。

祭壇はテーブルに白い布をかけただけの即席祭壇でしたが、とても良く見えました。

物事は見かけで決まるものではないとその時心からおもいました。

以前の毎月のミサへの参加者は二十三～二十五人でしたが、二十六日は七十名を超える人数でした。

誰の顔も穏やかでニコニコしていました。異国で、コロナの環境下で苦労は多かったでしょうが、主の元に集まれ、ミサに与れたことで喜びが共有できたからあの顔になったのだと思っています。平和な気持ちでした。忘れられない顔と時間でした。

この喜びが今度は島根県浜田市のフィリピン人の人達とも分かち合えることになりました。浜田教会の原田さんから当地のフィリピン人の人達にフィリピン人の司祭によるミサを開いてほしいと言う希望がありました。バート神父様が忙しい日程の中から浜田行きを都合をつけてくださいました。彼らの希望が早く実現することを祈っています。

バート神父（呉教会主任）

◇◇2022 平和行事◇◇

日　時：2022/8/5（金）・6（土）・9（火）
場　所：世界平和記念聖堂　他
テーマ：平和の糸を紡ぐ
～愛し合うきょうだいとして生きよう～

8/5・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
①基調講演（大聖堂）＊ライブ配信あり
教皇フランシスコ回勅『兄弟の皆さん』
福岡司教区　ヨゼフ・アベイヤ司教
②分科会（1）
世界平和記念聖堂の歴史　　幟町教会　青葉憲明さん
③分科会（2）
被爆証言　　観音町教会　朴南珠（パクナムジュ）さん
④平和祈願ミサ　＊ライブ配信あり　＊手話通訳付き
司式：大阪教区　酒井俊弘補佐司教

8/6・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
①原爆とすべての戦争犠牲者のためのミサ（大聖堂）
＊ライブ配信あり　＊手話通訳付き
司式：白浜満司教
②講演「難民の友に　難民と共に」（大聖堂）
アルペなんみんセンター　漆原比呂志さん他

8/9・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
長崎原爆犠牲者のためのミサ（大聖堂）
司式：白浜満司教　＊手話通訳付き

＊新型コロナウイルス感染症対策のため、平和行事に参加を希望される方は、事前申し込みが必要となります。

地区便り

岡山鳥取地区

＊岡山鳥取地区に、新しい司祭二名が派遣

復活のお恵みとして、岡山鳥取地区に、新しい司祭二名が派遣されました。フィリピン宣教会のダン神父（米子教会主任）とベトナムのソン・ロック教区から派遣されたベトナム人司牧担当のテエ神父です。テエ神父は、昨年閉園したゆりかご保育園の園舎に住み込み、ベトナム人の司牧にあたります。今後、この園舎は、ベトナム人と日本人の交流の場として利用される予定です。

また、日越交流赤磐農園を支援するために、「みこころの家」（赤磐在住のカトリック・ベトナム人共同体のグループの拠点）に六月から汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会から二名（シスター辻妃代子・シスター辻末美）が派遣されました。更に、修女連として、愛徳カルメル修道会鳥取修道院のシスター清水幸子とナミュール・ノートルダム修道女会クビリー修道院のシスター小谷恭子が地区宣教司牧評議会メンバーに入ってくださいました。

五月七日には、第一回地区宣教司牧評議会が新地区長西江神父のもとZoomで開催。画面の向こう側のみなさんとお互いの安否を気遣い、和気藹々とした評議会となりました。

新しい爽やかな風が吹いている岡山鳥取地区です。

＊初めてのヨゼフ祭

米子教会の守護の聖人は「聖ヨゼフ様」です。米子に教会ができて八十年を超えてはいますが、今まで教会の守護の聖人を祝う祭りが開かれたことがなかったように思います。この度、短期間ですがミラノ宣教会のパヴァン神父様（インド生まれ）が急遽米子に派遣されました。神父様の生まれ故郷の教会も『守護の聖人がヨゼフ様』で、毎年お祝いの祭りをされていたそうです。神父様の発案で三月十九日、平日の土曜日でしたが、お祝いのミサと簡単なパーティーを開催しました。これからは毎年「聖ヨゼフ祭」を続けようと思います。

（米子教会　都田修史）

米子教会でミサを捧げるパヴァン神父

広島地区

＊地区召命祈りの集い

五月二十八日、広島地区召命祈りの集いが祇園教会にて三年ぶりに開催されました。

各小教区から五人の司祭、九十人の信徒が参加しました。当日、他の会と重なり出席出来なかった白浜司教さまから「…イエス様の後に従う道を選ぶという決意をして、その道を全うすることは、多くの人々の祈りによる支えなしには実

海峡からの風 64
下関労働教育センターだより

昨年の終盤、修道会から、難民移住者の奉仕に関する新しい任命を受けた。最初は戸惑ったが、最終的にはマリアの心で覚悟を決めた。

一年前から月に一度続けてきた大村の入国管理センター訪問にも心がこもる。両親がブラジルから来て、日本で生まれ育った青年Mさんは、とある理由で入管に入れられてしまった。爽やかで、会いに行くこちらが元気をもらう気持ちのよい青年だ。仮放免されても日本で働くことはできない。（この国の政策は一体何なんだ！）親が決断をし、その日が来たらブラジルにそのまま飛ばなければならないことになった。その日が近づいてきて不安そうな彼に、「とにかく自分の仲間に繋げたいからサンパウロに着いたら必ず連絡をほしい」とメールアドレスを渡した。それから年末に会議のために東京に出張した。ある教会の受付の前を通ると、困っている南米風の婦人がいらっしゃった。義母が亡くなられ、葬儀で祈ってくれる司祭が見つからないという。大晦日、心を込めてミサをさせていただいた。その方はブラジルの方だった。「もしあなたの親戚がサンパウロにいるならどうか私の友人を助けてくれませんか」。彼女は「喜んで」と答えてくれた。

一月に入り、Mさんがブラジルに飛んで間もなく「途方にくれている」というMさんからのSOSメールが入っていた。急いでその婦人に連絡を取ると、「待っていましたよ」と言ってくださった。それからの話をMさんから聞いた時は、感動で言葉が出なかった。その翌朝には、その婦人のお姉さんがホテルまでMさんに会いに行ってくれ、話を聴いてくださり、「必要な間、ずっと住んでいいから」と家の鍵を渡してくれたのだという。

今Mさんは仕事も見つかり、新しい人生を、希望を持って生きている。「いつか同じような状況でブラジルに来なければならない人がいたら必ず僕に言ってください。僕がしてもらったようにその人を助けたい」と。ああ、それは確かに、呼びかけに応じる者を支えてくださる、神のなされる業だった。

労働教育センター所長
中井　淳　神父

現できないことです。…」とのメッセージに力づけられ、心一つに召命の祈り、ロザリオ、ミサを捧げました。

また、去年叙階された三宅神父さまがご自身の召命物語を卒直に話してくださいました。様々な体験や想いを通し、その中で神さまへの光を見つけ「はい」と応えられる勇気。私もそのように生きなければ、と思いました。

広く明るい祇園教会は、コロナ禍の開催場所にふさわしく久々の集いで一致の笑顔が溢れていました。尚、この集いでの献金は一粒会へ寄付しました。皆さまありがとうございました。（召命促進委員　浜村博美）

＊リーダー研修会『Sr.原講演会』Web開催

広島地区教会学校リーダー会では、昨年度末三月十三日、講師に援助修道会シスター原敬子氏をお迎えし、『リーダー研修会』を開催しました。コロナ禍で強いられたウェブ開催の術は逆に活動の幅を広げてくれ、講師シスター原は東京からの講演・指導、参加者も教区全体またカテキスタ講座の方にも呼びかけ二十九名を数えました。講演『兄弟となるための橋渡し＝聖霊に聴くカテケージス（要理教育）』は、教皇フランシスコが唱える「シノドス的（共に道を歩む）教会」を教会学校において実現していくためには、「何を教えるか」ではなく「いかに兄弟になっていくか」が重要であり、各々が「自分の中からのアウトプット」を大切にしお互いに出会っていく事で、歩みが深まっていく事を説かれました。そして「教えの教会から学びの教会へ」を考え、実際に自分を聞き現す「分かち合い」を通して、皆が同じ方を向き兄弟になっていく体験をさせていただく『シノドス的研修会』となりました。

山口島根地区

＊山口カトリック教会　サビエル書院

四十五年間、山口で活動してきた女子パウロ会が、二〇一三年クリスマスをもって「アゴラ」（聖パウロ書院）を閉店することになりました。

なんとか信徒の力で女子パウロ会の宣教活動の一端を継承していけないものかと、検討グループを立ち上げて協議を重ねました。

幸いにサンパウロの支援を受けて、「委託販売」という形で、二〇一四年九月十三日「サビエル書院」の開店にこぎつけました。

土・日・祝日のみの営業で、十時から十六時まで店を開いています。現在十一名のボランティアが交代で販売を担当しております。

はや七年が経過しました。いろいろ失敗や苦労がありましたが、ボランティア一同、宣教活動の一端を担うことに大きな喜びを感じております。

サビエル書院スタッフ一同（山口教会）

＊津和野町物語（ストーリー）（島根県市町村振興センターの企画）

「津和野乙女峠の流配物語」が昨年八月より、松江市の県庁南〈市町村振興センター〉に大きなタペストリーで掲示されています。【しまね19物語】というキャンペーンの様で、約一年間程、島根県内十九の市町村の売りが一つずつ紹介されていますが、その一つが津和野乙女峠のもりちゃんのお話しです。この七月中旬まで掲示されているようですから、お近くに行かれる方は足を運んで見てくださいね。併せて是非、津和野乙女峠にもお出かけください。

↑写真提供：島根県市町村振興センター　タペストリーとしおりにはもりちゃんのお話が紹介されています

聖書通読写経キャンペーン　完了者紹介（敬称略）

新約聖書写経完了された方
- No.025　許田宗龍　観音町教会
- No.026　堀越　瑶　水島教会
- No.027　堀越明子　水島教会

旧約聖書写経完了された方
- No.009　許田宗龍　観音町教会

全巻完了された方
- No.008　花田春美　向原教会
- No.009　許田宗龍　観音町教会
- No.010　堀越　瑶　水島教会

§お知らせ

聖書通読・写経キャンペーンは、教区創立100周年後も継続して行っていくことになりました。ぜひ、みことばを味わいながら、祈りの心をもって通読・写経にチャレンジしてみてください。

青少年の活動

青年活動企画室始動いたします！

青年達のためにいつもお祈りくださり、ありがとうございます。この六月より、企画、運営、ネットワーク作りに力を入れた「青年活動企画室」が始動致しました。担当司祭は大西勇史神父様、担当補佐は三宅仁孝神父様です。

本号では、前任職員の楠本と後任の益田より、ご挨拶させていただきます。

＊　＊　＊　＊　＊

青少年情報センターの職員を始めたのは、一緒に青年として活動していた大学の先輩に声をかけて頂いた学生の頃でした。退職した後も、情報センターの仕事を手伝う事があり、そしてまた二〇一九年から職員をし、通算十年以上も関わらせてもらいました。

青少年情報センターは、企画室へと変わります。コロナ禍で教会へ行かなくなった、そして元々足が遠のいていた青少年達がたくさんいると思います。新しい企画でたくさん青少年達が教会へ戻って来る事を願いながら今後の発展をお祈りしております。

（前任：楠本紗由里）

二年間職員を務めたのち広島を離れ、三年ぶりに戻って参りました。教区創立百周年も控えておりますし、青年からも盛り上げていけたらと思っております。引き続き、青年のためにお祈りくださいますと幸いです。

（後任：益田なお）

写真：白浜司教（中央）を囲んで、大西神父（左）と三宅神父、新旧職員（前列）。
撮影場所：青年活動企画室がある愛宮ラサール記念館玄関

釜山教区から岡山教会へ

岡山教会　朴鍾錫（パク ジョンソク）神父

「あなたは、生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」（創世記十二章一節）

この言葉は日本への宣教を勧められ、ためらっていた私に釜山教区の司教様がおっしゃった福音の言葉です。「行きなさい」という神様の言葉に応じて広島教区に派遣された朴鍾錫ヨセフ神父と申します。

「神様から送られた者がいったいなぜ私なのか」最近、日本語の学校に通いながらずっと思ってきた黙想です。日本語を上手く聞き取ることができず、自分の考えをはっきり伝えられない今の状況の中で、再び私を悔い改めの道に招く神様の声ではないか、また今までとは全然違う言語を通して「私の言葉ではなく神様の言葉を伝えなさい」という意味ではないかと思います。

日本に来て百日くらい経った今でも相変わらず怖くてドキドキしています。しかし、私が過ごしている岡山教会コミュニティの神父様と信者の皆さんの祈りのおかげで力を出しています。

「何でも見て、何でも読んで、何でも聞いて、何でも知ろう、もっと将来の糧になるから。」という日本語の先生のアドバイスも大変役に立っています。

私は今やっと一歩を踏み出しました。今の私はまるで赤ん坊のように自分の力で立てない状態と思いますが、いつかは皆さんと一緒に歩いて、また走れる日が来るように望みます。その途中で私が疲れて転んでしまう時もあるかもしれません。しかしその度に私を立ち上がらせてくださる神様と助けてくださる皆様を信じながら楽しく進んでいきたいと思います。

私が司祭叙階の時に選んだ聖句「私だ。恐れることはない。」（ヨハネ六章二十節）という私たちの主の言葉を思い出しながら・・・。

ひと紙〈113〉

風紋

これまで広島教区は青年活動が活発な教区だと言われてきましたが、教会に青年の姿が見えなくなってきた上に、コロナ禍という状況もあり、どうなってしまうのかと寂しく思っていました。今回の新しい青年活動の動きには期待したいと思います。（にん）